

# 四季彩り

中小企業診断士

成岡 秀夫

一昨年の4月から京都商工会議所に新設された「京都府事業引継ぎ支援センター」で、事業承継、事業引継ぎの業務を担当させていただいている。団塊の世代の経営者が70歳前後になられて、気が付けば後継者がいないという企業や店舗が多数ある。あるいは、ご子息が娘さんだけでもう嫁がれて久しく、可能性が全くない。社内のリーダークラスに打診してみたが、体よく断られた。本人はその気があるのだが、どうも家に帰って奥さんに相談すると、お断りに

## 事業承継と事業引継ぎ

なったというケースも多い。男性直系で家業や企業を承継していくことは難しい。ならば、徳川御三家ではないが遠縁や親戚、あるいは養子と



いう選択肢も過去にはあっただろう。しかし、昨今はこの厳しい経営環境に立ち向かうには、相当勇氣と覚悟の要ることだ。どうも腰が引けるといふ方が多いのだろう。

優秀な後継者のおられる企業を見てみると、幼少の頃から承継のイメージがあるようだ。歌舞伎の名跡を継ぐのとは違いますが、やはり小さな時から覚悟が大事なのだろう。

単に商売やビジネスを継ぐのではなく、その企業やお店が提供している価値を当人が理解している。地域に貢献していたり、その業界でなくてはならない製品を製造していたり、その企業でしかできない技があったりすれば、承継する人も覚悟が固まる。

今の時代に、簡単に後継者が見つからない。昨今はM&A（企業の合併・買収）という方法もあるが、それは最後の砦だ。まして、必ずしも相

手先企業が見つかるとは限らない。たとえ見つかったとしても、うまく結婚しハッピーな新生活になるとは限らない。

中小企業の承継は一族親族が大前提だ。その時期になってから慌てては遅い。気が付いたときから肅々と準備し、幼少から承継してくれるイメージを持つてもらうことが大事だ。後継者を探し、育てるのは、現在の経営者の最後の大事な仕事だ。

なるおか ひでお 1952年、京都市生まれ。京都大工学部卒。三菱レイヨン（現三菱ケミカル）や京都市の出版社取締役を経て、2004年に成岡マネジメントオフィス設立。16年から京都府事業引継ぎ支援センター統括責任者を務める。